

2009年12月2日

佐賀県知事の玄海 3 号機プルサーマル 通常運転容認に対する抗議声明

佐賀県知事 古川 康 様

止めようプルサーマル・佐賀
プルサーマルと佐賀県の100年を考える会

原子力発電は核分裂反応を利用するので放射能が大量に発生し放射性廃棄物が残り、本来危険なものです。危険性を封じ込めるには限度があるのが実状です。その危険性を認めて実施する利益が住民にあるかどうか、代替の手段はないか等検証しなければならないことは多くあります。

プルサーマルは、もともと危険な原子力発電を「安全余裕の低下」と表現されるように、より危険にします。さらに、猛毒のプルトニウムを取り出す再処理に膨大な資源とエネルギーをつぎ込むため多大の費用がかかるので経済性はなく、資源節約、リサイクルの効果もありません。そのうえ、再処理工場で放射能を空気中と海中に放出するので環境を悪化させます。

私たち住民にとってプルサーマルの危険性を引き受けるメリットはないと考えます。

さらに、以下の問題が浮上したままです。

- 1、 国のMOX燃料検査には、国が責任を持つ法的に決められた具体的な審査基準がなく、客観的判断がなされていない。
- 2、 玄海用MOX燃料には関西電力が使用を中止したのと同レベルの不合格品が混じっている可能性が、検査データの情報公開が行われていないため検証されず、否定されていない。
- 3、 使用済みMOX燃料の処分方法は核燃料サイクルが行きづまっているため、

見通しが立っていない。

- 4、地震が活動期に入ったといわれるなかで、国の新指針による耐震審査が終了していない。

私たちは、県の姿勢として

- 1については、国に明解な説明と基準を要求すること、
 - 2については、全検査データの情報公開を要求し、安全を確認すること、
 - 3については、見通しが立つまでプルサーマルを実施させないこと、
 - 4については、国の審査が終了するまでプルサーマルを中止させること、
- が必要だと考えます。

福井県は不合格品の問題で関西電力や元請会社に立ち入って県独自で確認し、住民の不安解消に努めています。また、愛媛県は耐震問題について国の新指針で安全が確認されるまでMOX装荷を認めないと表明しています。佐賀県民として現在の佐賀県の姿勢には大きな危惧を持っています。

以上のような点から、佐賀県知事が県民の安全を積極的に追及せず、プルサーマルの通常運転を容認していることに強く抗議します。

連絡先

止めようプルサーマル・佐賀

杉野ちせ子 090-5740-1441

プルサーマルと佐賀県の100年を考える会

石丸 初美 090-6772-1137